

第1学年 道徳学習指導案

2組 計23人(男子10人, 女子13人)

指導者

阿部大亮

1 主 題 名 ともだちっていいな (2-(3) 友情・信頼, 助け合い)

読み物資料「二わのことり」(学習研究社1年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年2-(3)】 「友達と仲よくし、助け合う。」
【中学年2-(3)】 「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」
【高学年2-(3)】 「互いに信頼し、学びあって友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」

(2) 指導内容についての基本的な立場

「友達と仲よくし、助け合う」とは、友達と互いに心を許し、安心できるきずなを保ち、相手が困っているときに手を差し伸べたり、力を合わせたりすることである。

この期の子どもたちは、友達の立場を認めたり、理解したりする能力が徐々に発達してくる。しかし、まだ自己中心的な考え方も強く、自己の損得で結びつく友達関係も見られる。また、友達と仲よくしなければいけないことは分かっているものの、その理由としては、「怒られるから」、「そうしなさいと言われるから」等、他律的な考え方が多く見られる。

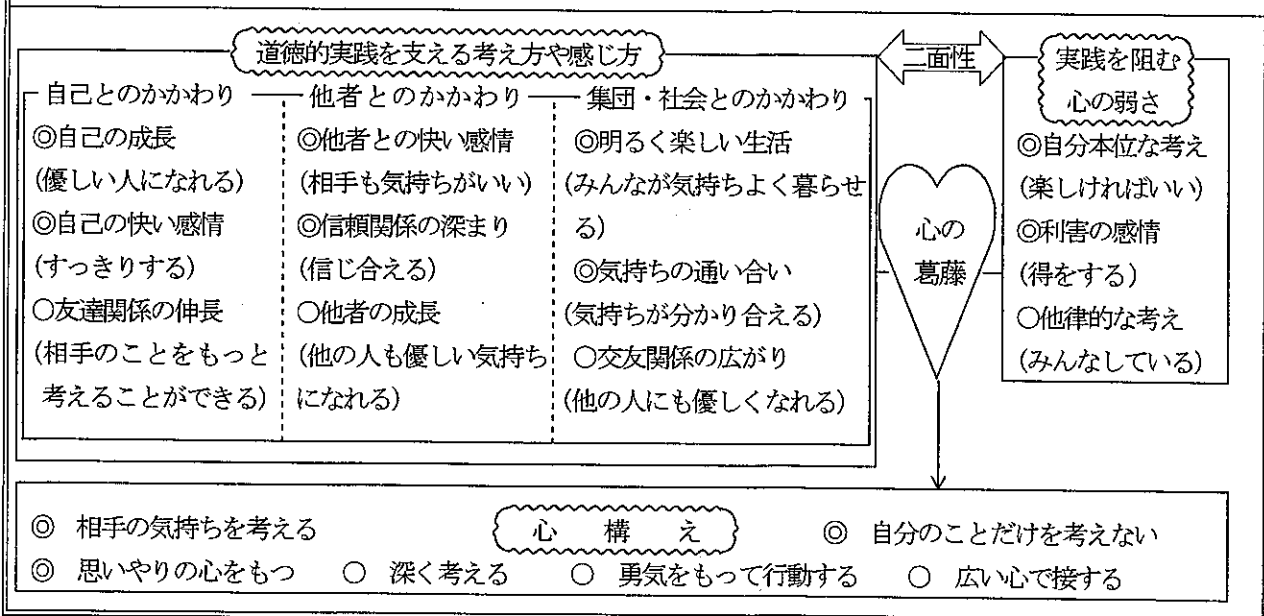
そこで、互いを認め合い、よりよい友達関係を築き、様々な場面で助け合いながら生活するために、「友達と仲よくし、助け合う」ことの本質的な理解を深めることが必要であると考えられる。

これらのことから、本主題では、友達とのかかわりの中で生じる問題場面に接したときの心情やその変化を、自らの体験場面での内面と比較しながら追求する活動を通して、「友達と仲よくし、助け合う」ことの本質的な理解を深めるとともに、友達の立場で考え、仲よくしていこうとする心情を育てることをねらいとする。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

第1学年及び第2学年

友達と仲よくし、助け合おうとする心情を育てる。



(◎は重点項目)

(4) 資料について 中心場面 主人公の心の動き→

【場 面】	(道徳的な見方考え方)	【主人公の心情】	(心の弱さ)	【価 値】
① みそさざいは、やまがらの家に行くかうぐいすの家に行くか迷っている。ことりたちはうぐいすの家に行ってしまう、みそさざいもうぐいすの家に行ってしまう。	・ やまがらを喜ばせてあげよう。 ・ 今日は、誕生日だからやまがらの家に行こう。	・ 音楽会の練習が楽しそうだから、うぐいすの家に行こう。 ・ 明るくて、近いからうぐいすの家に行こう。 ・ みんなも行ったから、わたしも行こう。		友情・信頼、助け合い 思いやり ・親切 誠実・明朗
② うぐいすの家で、みそさざいは、やまがらのことが気になり始める。	・ やまがらは、僕を待っているかな。 ・ やまがらは寂しがっているだろう。	・ みんなもいるし、行かなくていいや。 ・ 音楽会の練習の方が楽しいな。		友情・信頼、助け合い 思いやり ・親切
③ みそさざいは、抜け出して、やまがらの家へ行く。	・ 今、行くよ。待っていてね。 ・ 早く行って喜ばせたい。 ・ 遅くなってごめんね。			友情・信頼、助け合い 思いやり ・親切 勇気
④ みそさざいが来ると、やまがらは、涙を浮かべて喜ぶ。	・ 友達のお祝いができてよかった。 ・ 喜んでくれてよかった。 ・ 僕も気持ちよくなった。			友情・信頼、助け合い 思いやり ・親切

3 子どもの実態

(1) 道徳の時間に関する子どもの実態

(調査人数 22人 H18.9.15)

項 目	◎	○	△
資料の登場人物に疑問や共感、憧憬を感じる。	19	1	2
友達の意見に疑問や共感、憧憬を感じる。	19	3	0
教師や家族、地域の方の生き方や考え方に疑問や共感、憧憬を感じる。	19	3	0
自分の生き方や考え方に疑問や共感、憧憬を感じる。	12	9	1
「大事なんだけど、自分はできていないな」と思う。	15	4	3
「自分はこうだったな」、とか「これからこうしていきたいな」と自分のことを考える。	15	6	1
自分のこれまでで行ってきたことに「やってよかったな」、「いいことをしたな」と感じる。	19	1	2
道徳の時間に一生懸命考えようとしている。	15	6	1
道徳の時間に考えたことを、「これからの生活に生かしていきたい」と思う。	21	1	0

(◎…よく当てはまる、○…どちらでもない、たまにある、△…まったく当てはまらない)

(2) 本主題に関する子どもの実態 (調査人数 22人 重複あり H18.9.16)

ア 本主題に関する経験場面①

ウ 道徳的価値の意義

友達と仲よくし、助け合えた経験	人数	友達と仲よくし、助け合うことが大切な理由	人数
・ 一緒に遊んだ・歌った ・ 一緒に登下校した ・ 物を貸してあげた ・ 給食当番を代わってくれた ・ 教科書を見せてくれた	13 6 3 2 1	・ 友達が減るから ・ けんかにならないから ・ 友達が嫌な気持ちになるから ・ 友達と話せなくなる・遊べなくなるから ・ 互いが嬉しい気持ちになるから ・ 自分が嫌な気持ちになるから ・ 楽しく遊べるから ・ 自分がいい気持ちになれるから ・ 友達でいられるから ・ 意地悪されないから ・ 無回答	4 3 3 3 2 1 1 1 1 1 2
イ 本主題に関する経験場面②			
友達と仲よくし、助け合えなかった経験	人数		
・ けんかをした ・ 仲間はずれにした ・ 悪口を言った・嫌がらせをした ・ ない	9 5 4 4		

(3) 考 察

ア 道徳の時間に関する実態から

子どもたちは、道徳の時間に登場人物、友達、教師、家族や地域の方の生き方や考え方に会うことで、共感、疑問や憧憬を多くもつことが分かる。これに比べ、これまでの自分を振り返り、見つめることについては、「よくできている」と答えた子どもの割合が少なかった。また、ほとんどの子どもたちが、道徳の時間で考えたことを生活の中で実践していきたいと考えている。これらのことから、本学級においては、自分を深く見つめ、考えさせるための場の設定や指導法の工夫を図っていくことが必要だと考えられる。

エ 道徳的価値に対する心構え

友達と仲よくし、助け合うために大切な心構え	人数
・ 優しくする	17
・ 友達のことを考えて、親切にする	3
・ 一緒に楽しむ	2
・ 意地悪しない	1
・ 無回答	1

イ 本主題に関する実態から

調査の結果から、本学級の子どもたちの多くは、「友達と仲よくし、助け合う」ことは、「一緒に遊ぶ」、「一緒に登下校する」など、友達と場を共有することだととらえていることがわかる。また、ほとんどの子どもたちが、「けんかした」、「仲間はずれにした」などの友達と仲よくできなかった経験を有している。

本主題における道徳的価値の意義に関しては、「友達が嫌な気持ちになる」、「互いが嬉しい気持ちになる」などの理由を挙げている子どもがいるものの、「友達が減る」、「友達と話せなくなる・遊べなくなる」等、自分の利害に関わる部分で道徳的価値をとらえている子どもも少なくないことが分かった。これらのことから、「友達と仲よくし、助け合う」ことの本質的な理解が深まるように指導していくことが重要だと考えられる。

4 本 時

(1) 目 標

- 相手の立場を考え、友達と仲よくしようとする心情を高めることができるようにする。

(2) 指導に当たって（研究の視点との関連）

- ◇ 資料の世界を子どもたちがイメージを膨らませながら視聴することができるように、5つの場面に分けて、資料を区切って提示する。このことにより、主人公の行動や心情を考えたり、今後の資料の展開を想像したりする中で、主人公が心の弱さを乗り越えることができたのは、なぜなのかを自分に置き換えて考えながら、話し合うことができるようにする。

【視点1－イー（ア）資料提示の工夫】

- ◇ みそさざいがやまがらの家に来た場面を役割演技によって表現することで、弱さを乗り越えて道徳的な実践ができたみそさざいの心情や、その時のやまがらの心情を共感的に理解することができるようにする。そして、このことにより、「友達と仲よくし、助け合う」ことのよさや素晴らしさを味わうことができるようにする。

【視点1－イー（ウ）役割演技、動作化の充実、工夫】

- ◇ 「深める」過程において、友達のことを考えて行動できた経験を想起し発表する場を設ける。このことにより、友達を思い、優しくしたり、されたりしたときの心地よさを全員で共有し、味わうことができるようにする。

「高める」過程では、学級の子どもが仲よく協力できている映像や写真を基に友達のよさについて、改めて気付くようにすることで、さらに、友達と仲よくし、助け合おうとする実践意欲を高めることができるようにする。

【視点2－ア 自分のよさや可能性に気付くことができる指導法の工夫】

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気付く (5)	1 友達と仲よくできた経験や、仲よくできなかった経験について話し合う。 友達と仲よくできた経験はありますか。また、その時、どんな気持ちでしたか。 友達と仲よくできなかった経験はありますか。また、その時、どんな気持ちでしたか。 ・友達と一緒に遊んだ。楽しかった。 ・一緒に学校から帰った。うれしかった ・保健室に連れていってくれた。ありがとう ・と思った。 ・けんかをした。嫌な気持ちになった。 ・仲間はずれにした。やらなきゃよかった。 ・悪口を言った。言わなければよかった。 ともだちとなかよくするには、どんなきもちがたいせつだろう。	○ アンケートを基に話し合うことで主題に関する経験を想起できるようにする。 ○ 話し合いを通して、意識と行動の矛盾に気づき、主題への問題意識を高めることができるようにする。 ◇ 資料を場面ごとに分けて、その都度主人公の心情を考えることで、子どもたちがイメージを膨らませながら主人公の心情に深くせまることができるようにする。
見つけめる (28)	2 資料「二つのこり」を視聴し、みそさざいの心情を中心に話し合う。 (1) うぐいすの家に行ったみそさざいの気持ちを考える。 どうして、みそさざいは、うぐいすの家に行ったのでしょうか。 ・うぐいすの家は明るくて近い。みんなも行ったから。 ・やまがらの家は暗くて遠い。 ・音楽会の方が楽しそうだから。 (2) うぐいすの家で、やまがらのことが気になりだしたみそさざいの気持ちを考える。 ・やまがらさん今ごろ何をしているのだろう。やまがらさん待っているだろうな。 ・やまがらさん寂しい思いをしているだろうな。やまがらさんの家に行こうかな。 (3) うぐいすの家を抜け出してやまがらの家へ飛んでいくみそさざいの気持ちを考える。 ・招待をされていたのにごめんね。やまがらを喜ばせたい。一緒にお祝いしてあげたい。 ・僕だけ楽しんでいてごめんね。友情を大切にしたい。早く飛んでいこう。 (4) 目に涙を浮かべて喜ぶやまがらを見て、みそさざいはどんな気持ちになったのか役割演技をしながら話し合う。 みそさざいが来てくれて、目に涙を浮かべて喜ぶやまがらと、それを見たみそさざいはどんな気持ちになったのか、お面をかぶって話してみよう。 【みそさざい】 ・やまがらさん遅くなってごめん。 ・やまがらさんが喜んでくれてよかった。 ・寂しい思いをさせてしまったね。 【やまがら】 ・来てくれてありがとう。 ・本当に嬉しいよ。 ・これからも友達でいようね。	○ うぐいすの家に行ったみそさざいの気持ちを考えることで心の弱さを共感することができるようにする。 ○ やまがらのことが気になりだしたみそさざいの気持ちを考えることで心の迷いについて理解できるようにする。 ○ やまがらの家へ飛んでいくみそさざいの気持ちを考えることで、どんな気持ちがあったから心の弱さを乗り越えることができたのか考えられるようにする。 ◇ みそさざいがやまがらの家に来た場面を役割演技で表現することで、うぐいすの家をぬけ出してやまがらの所に行ったみそさざいの心情を共感的に理解できるようにする。
深める (4) 高める (8)	3 友達のことを考えて行動した経験を想起し、発表する。 友達のことを思って、何かしてあげたことはありますか。 ・友達を保健室に連れていってあげた。 ・忘れ物をした友達に貸してあげた。 ・友達に勉強を教えてあげた。 4 友達と仲よく活動できている映像を見て、友達と仲よくしていこうとする気持ちを高める。 ・けんかしたこともあったけれど、やっぱり、わたしたちは仲のよい友達なんだね。 ・ほくたちは、互いのことをよく考えて、もっと仲よくすることができるかもしれないね。	◇ 相手の立場に立って考え、友達と仲よくしようとする気持ちを高めることができたか。 【発言、観察、ワークシート】 ◇ 友達のことを考えて行動できた経験を発表し合うことで、その経験のよさを共有化できるようにするとともに、自己の可能性に気付くことができるようにする。 ◇ 友達と仲よく活動できている映像や写真を見ることで、友達と仲よくしていこうとする実践意欲が高まるようにする。